

【スポーツのいふ】

伊藤 敏

バレーボールに初めてさわったのは18歳の時、昭和21年だった。それから学生時代の3年間、汗まみれ、ほこりだらけの練習だった。その頃はグラウンドのコート、体育館の床の上なんぞ夢のまた夢。

昭和24年4月東桂中学校に赴任、嬉しいことにバレーボール大好きな学校に柳行李にせんべい蒲団を置いた。そして13年間中学生とバレーボール、青年団のみんなとスポーツを通して交流を深めた。青年学級主事、青年団長もさせてもらった。勿論学校勤務があつたから何か教えたには違いないのだが記憶の底にあるのはバレーボールのことばかり。居候5年、東桂のあの家この家と、ともかくにもお世話になった。

そして谷村中学校へ。昭和39年小野の高部さん率いるママさんバレーボールチームとの出会いが、社会体育への入り口になり、バレーボール協会、体育指導委員、体育協会と39年に亘る永いつきあいになった。



40年の学校勤務が終わって、バレーボールの指導もできなくなったとき、学生時代の相棒、小林君から“ゴルフ位出来ネエと遊んでヤンネエ”とおどかされて園田スポーツから代金後払いで道具を用意した。“オイ手袋も必要だぞ、ウンあるからいい。”とゴムのトッキのついたニイシイ手袋を見せた。“マ－イイカ。”それで済んだが、みんな皮の手袋をしていた。軍手をしていたのは俺と吉田の誰かさんだけだった。それから100たたきを脱すべく努力しているが、今もって100たたきは脱していない。天性の不器用であろう。月1のゴルフでは無理もない。それから、ソフトバレーのお誘いに時折参加する。

ねりんピックの全国大会予選グループで1位だったが、1位グループではビリだった、最初から飛ばしすぎた。今年も県のねりんピックを楽しんだ。ジャンプしたつもりが213cm、寄る年波には勝てそうにない。ゴルフクラブを杖にして、ゴルフド



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



【八朔祭と屋台ばやし】

谷村ばやし保存会 白井 武

都留市(谷村)は、江戸時代より織られていた郡内縞、甲斐絹の織物が江戸や京大阪の都人に大変好まれ一大ブームとなり、郡内の政治経済の中心として栄えた。

谷村の機屋と商人は大きな財を得て、八朔祭に華を添える舶来の高価な緋羅紗やビロード、金、銀糸、ギヤマンを使い、江戸の一流絵師の下絵による絢爛豪華な後幕の4台の屋台を建造、他の町の4台の屋台との共演は、当時流行の江戸歌舞伎との交流により、日本で大変珍しい三味線入りの祭囃子が生まれ、しゃがり囃子と相俟って当時織物商人接待用の料亭の姐さんと町の若者達のお囃子による屋台が祭に華を添えていた。

しかし、長期の太平洋戦争により祭が途絶え、漸く戦後祭が復活したが、すでに屋台は老朽化し、演奏できる人も高齢化、鍛冶屋坂に住まいする長岡こと師匠夫妻の弟子がいるのと、早馬町に太鼓奏者が現存しているのがせめてもの救い。

美術的に価値の高い後幕の再現と4台めの屋台が昨年再建され、屋台保存会より屋台囃子の復活を我々保存会へ委嘱され、昨年11月より三味線教室を開設、本来ならマンツーマンで教えるのを生徒30数人を木崎講師は、一緒に教える画期的方法で指導、我々もどうなることかと心配したが生徒も真剣に付いてくるのに驚いた。



また、太鼓教室も40数名の受講生を短期間に仕上げるため、私も生徒も真剣そのもの、いよいよ祭前日の宵祭に生徒さんの演奏ぶりをそつと見廻ったところ、初めての演奏とは思えぬ堂々として実力以上の演奏を披露、町の長老達は長年夢に見ていた光景が再現され涙ぐんでいるのを見て教えて本当によかった!と、自分が若い頃、町の屋台で演奏していた頃の情景と重なって感慨一入でした。